

平成28年度第2回幕別町創生総合戦略審議会 議事録

- 1 日 時 平成29年3月27日（月） 18:27～19:30
- 2 場 所 役場庁舎3階3-A B会議室
- 3 出席委員 藤原会長、森委員、土谷委員、山内委員、澤田委員、森岡委員、木島委員、佐々木委員、大槻委員、喜多委員、杉野委員、中村委員、宮本委員、堀川委員、村田委員
(欠席：宮田委員、山本委員、仙北谷委員、橋本委員、三島委員)
- 4 町出席者 菅野部長、山端課長、宮田副主幹、西嶋
- 5 随行者 十勝総合振興局地域政策課 山田主査
- 6 傍聴者 十勝毎日新聞社 眞尾敦
- 7 会議要旨

① 開 会

新委員の紹介

長尾委員⇒杉野委員（幕別地区連合）

② 会長挨拶

③ 議事概要

下記のとおり

(1) 平成28年度の幕別町の人口動態について

資料1により西嶋から説明。

(説明概要)

平成28年度の住民基本台帳における人口動態についてご説明いたします。

- 1 直近10年間でありますH19年度～H28年度の年度末人口についてであります。ただし平成28年度は直近のH29.2月末の人口を記載しております。

左から順に町内の幕別地区、札内地区、忠類地区、幕別町全体の人口を記載し、その右隣は対前年の人数になります。その次に異動事由別の人口になります。各年度とも4月～3月の1年間の人数を記載しておりますが、平成28年度は4月～平成29年2月の11ヶ月間の人数です。

順に出生者数、死亡者数、出生者から死亡者数を差し引いた自然増減の人数、転入者数と転出者数、転入者数から転出者数を差し引いた社会増減の人数、最後に自然増減と社会増減の合計人数を記載しております。

表の一番下段の平成28年度の欄になりますが、幕別町全体では27,257人と前年比91人の減であり、出生者数は2月までの11ヶ月で144人、死亡者数は268人で自然増減は124人の減、転入者数は818人、転出者数は786人で社会増減は32人の増、自然増減と社会増減の合計では92人の減となります。合計のマイナス91人と異動事由別のマイナス92人の差1人は転出取り消し等その他の異動として処理されている理由によるものであります。

ここ10年間の人口を比較しますと、平成25年度の27,665人をピークとしここ3年間は減少であり町の人口減少が始まったところであります。一方で各地区別を見ますと、幕別地区は減少幅が大きく、表には記載されていませんが、平成19年度の6,781人から平成28年度の5,870人と911人の減であり、率にしますと13.4%の減、札内地区は平成19年度の18,778人から平成26年度の19,901人までは増加、その後減少し始めている状況です。忠類地区は幕別地区と同様に減少傾向で平成19年度の1,784人から平成28年度の1,585人と199人の減、率にしますと11.2%の減であります。

異動事由別では、出生者は平成25年の194人までは200人を超える年もありましたが、ここ数年は170人前後で推移しております。一方で死亡者数は高齢者数の増加に伴い年々増加、

ここ数年はほぼ 300 人前後で推移しております。

転入・転出者数は年によってばらつきはありますが、社会増減は平成 27 年度が 132 人の減であり、平成 28 年度も先月 2 月末現在で 32 人とこれまでのような大幅な増は見込めない状況であります。このため自然増減と社会増減の合計では自然増減の影響が大きく、結果ここ数年は毎年マイナス傾向を示しております。

2 (1) 幕別町人口ビジョンから推計した 2017 年推計値との比較

昨年策定しました人口ビジョンにおける地区ごとの推計人数と実人数を比較したものであります。推計人数(A)は人口ビジョンが 5 年おきの人数を記載しているため、2017 年 (H28 年度末) は 2015 年から 2020 年の値を 5 年間の均等割で推計した人数としております。

その右隣の実人数は平成 29 年 2 月末の人口、達成率は実人数を推計人数で割ったものであり 1 以上で推計人数よりも人口が多いことを示しています。その右隣は昨年との比較のため平成 28 年 3 月末の人口と対前年の人数を記載しています。達成率を見ますと幕別市街地・札内市街地は推計人数よりも人口が減少しておりますが、その他の地域では推計人数よりも多く町全体では推計人数とほぼ同数であります。昨年度と比較しますと、忠類市街地・忠類農村地域では一番右の対前年比はプラスであります。その他の地域では昨年より減少しており、特に幕別市街地では 3,976 人とはじめて 4,000 人を下回る結果となっております。

なお、幕別札内農村地域は住所として依田にあります特別養護老人ホームを含めております関係でマイナス値が大きく出る結果になります。

(2) 幕別町人口ビジョンから推計した 2017 年推計値との比較(年齢別)

次に年齢区分別の比較となり、左から 2017(平成 28 年度末)年の推計人数 (A)、平成 29 年 2 月末の実人数、達成率、平成 28 年 3 月末の実人数、対前年の人数を示しており、推計方法は(1)と同様であります。

年少人口と生産年齢人口は推計よりも早く減少する一方で、65 歳以上の老年者人口は 8,286 人と 8,000 人を越え、推計よりも早いペースで高齢化が進んでいる状況であります。

2 ページをご覧ください。

(3) 高齢化率

平成 29 年 2 月末の各地区別の人口と高齢化率になります。

町全体の高齢者数は 8,286 人と町人口の 27,257 人に対する高齢化率は 30.4%と 30%を越え、地区別では幕別市街地が 41.17%と最も高い割合を示しております。

3 自然動態

(1) 平成 28 年度の出生者数と死亡者数

平成 28 年度 (4 月～2 月までの 11 ヶ月間)における出生者数と死亡者数であります。

地区別の出生者数は幕別市街地の 14 人、札内市街地で 109 人、忠類市街地で 4 人、幕別札内農村地域で 15 人、忠類農村地域で 2 人と合計で 144 人であり、欄外に記載していますが 3 月の出生見込者数を足すと平成 28 年度は 165 人の方が生まれる見込みであります。

合計特殊出生率は 1 年間の出生者数が定まっていないため計算をしていませんが、個人的な推測ではおそらく昨年同様 1.35 前後になるかと思われま。

4 社会動態

(1) 平成 28 年度における転入と転出の比較

平成 28 年度 (4 月～2 月までの 11 ヶ月間)における転入と転出の比較になります。

左側が幕別町に転入してきた方が以前に住んでいた地域を示す転入元、幕別町を挟んで右側が幕別町から転出した方の行き先である転出先、次に地区ごとに転入から転出を差し引いた人数を示しています。11 ヶ月間であり、異動の多い 3 月の人数が含まれていないため正確な値はまだ出ておりませんが傾向としてご覧ください。

一番右の欄を見ますと、帯広市、音更町、芽室町、十勝管内の町村から幕別町に流入する一方で、札幌市、東京都といった大都市に人口が流出している状況であります。

(2) 年齢別の転入者数と転出者数の比較

5歳ごとの年齢別の比較になります。

上段が5歳ごとの転入者数、その下が5歳ごとの転出者数であり、その下が転入者数から転出者数を差し引いた人数を示しております。

一番下の差の欄を見ますと平成28年度は25歳～44歳までの世代の転入者数が転出者数よりも多く、その同一世帯の0～4歳の子どもの転入も多い状況であります。一方で15歳～24歳までの卒業や就職する年代の若い方の転出が多い状況となっております。

(委員からの質疑) なし

(2) 幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成29年度事業について

資料2により西嶋から説明。

(説明概要)

総合戦略の具体的事業のうち、国の地方創生交付金の活用の有無に関わらず平成29年度に町が取り組む事業を総合戦略の基本目標ごとに掲載したものであります。

平成29年度は新規18事業と既存事業の拡充4事業を含む64事業、9ページの欄外になりますが予算総額で15億5,733万7千円をかけて実施する予定です。

具体的事業は2ページから9ページにかけて掲載しておりますが、平成29年度の新規及び拡充事業についてご説明いたします。

3ページ 1の²、ナウマン公園遊具整備事業

平成28年度に忠類のナウマン公園に、大型遊具としてローラーライダーやネットトランポリン、ザイルクライミングなどの大型遊具を設置しましたが、平成29年度は同公園内にウォーターライダーを新設し、子ども連れを中心に忠類地区の魅力向上に取り組むものであります。

1の³ プラス8プロジェクト in 幕別実行委員会補助金

インバウンドといわれる外国からの旅行者を対象に本町への滞在時間の8時間延長を目的に、地域情報を教える観光ガイドやPGの体験指導を行うボランティアの育成、PG発祥の町としてパークゴルフを含め主にアジアをターゲットに幕別・札内地域の観光情報発信などに取り組む実行委員会に補助するもので、国の地方創生交付金を活用した取組であります。

1の⁴ 依田公園焼肉ガーデン改修事業

依田公園の焼肉ガーデンは昭和55年にオープンしたものであります。引き続き焼肉ハウスとして活用するほか、PGや観光情報の発信拠点として活用すべく建物改修を行うものであります。

3の⁴ 空き地・空き家バンクの開設

北海道の空き家バンク事業と連携し、空き地・空き家バンクを開設し、町内における空き地などの情報を広く提供するものであります。

4ページをご覧ください

2の¹ 不妊治療費助成事業

平成28年度から一般不妊治療費の助成を開始したほか、特定不妊治療の助成金の上限額の引き上げを始めましたが、平成29年度より特定不妊治療助成事業の所得制限(所得制限額夫婦合算年間収入額730万円)を廃止し、出産希望者の環境を広げるものであります。

2の⁴ 不育治療費助成金

流産、死産、早期新生児死亡を繰り返すことで不育症と診断され、不育症の検査・治療を

受けた方に対して1治療あたり100千円を上限に助成するものであります。

2の⁵ 産婦健診助成金

出産後間もない時期の産婦の健康検査の費用について助成するものであります。

2の⁶ 産後ケア事業

出産後の母子に対して心身のケアや育児のサポートを目的とした助産婦による個別訪問を行うものであります。

5ページをご覧ください。

3の⁴ 修学旅行費支援事業

義務教育費の負担を軽減し子育て環境の向上を図ることを目的に、町内中学校に在籍している中学3年生(228人)の修学旅行に要する費用の一部を補助するものであります。

4の³ インターネット通信速度の改善

インターネット通信速度の検査で低かった途別小学校と明倫小学校の2校のWi-fi整備によりインターネット通信速度を改善するものであります。

6ページをご覧ください。

5の¹ 子育てハンドブックの作成

夫婦で知っておきたい妊娠・出産から子育てまでの情報を掲載した子育てハンドブックを作成し配布するものであります。

5の³ 札内青葉保育所の民営化

札内青葉保育所は指定管理者制度により平成22年から士幌町にある社会福祉法人温真会が運営しておりましたが、4月から民設民営に変更するものであり、温真会が引き続き運営いたします。

5の⁴ 忠類へき地保育所の直営化

忠類へき地保育所の運営を忠類保育所運営委員会への委託から直営に変更し、平成29年度から土曜日の保育も実施するものであります。

5の⁶ 臨時保育士の処遇改善

町営保育所の臨時保育士の賃金改正のほか、これまで月1回の有給休暇を病気休暇なども取得可能にするなど有給休暇の改善を行うものであります。

5の⁹ 特別支援教育支援員の配置

幼稚園3人配置、小学校35人配置、中学校7人を配置しておりますが、平成29年度より教員と支援員の打合せ時間を確保するものであります。

7ページをご覧ください。

1の¹ コミュニティバス運行費補助事業

コミュニティバス運行費に対する補助金であり、平成29年度より幕別線のバス停を2箇所(那須商店前と吉田時計電機店裏)増設し、より利用しやすく運行時刻を見直すものであります。

2の⁶ 地域防災計画の修正

幕別町地域防災計画を見直し、職員が迅速に行動するための初動マニュアルを作成するものであります。

2の⁷ 防災のしおり(ハザードマップ)の見直し

洪水ハザードマップの修正に伴う防災のしおりを見直し、全世帯に配布するものであります。

8ページをご覧ください。

3の¹ まくべつ健康ポイント事業

北海道が行う健康ポイント事業と連携し、町が主催する健康づくり教室や健診などの参加

者に対してポイントを付与し、ポイント達成者に対して景品を配布することで、町民が健康づくりに関心を持ち、健康寿命の延伸に繋げていくものであります。

3の² 生活支援コーディネーター事業

平成29年度から始まる介護保険の総合事業において、介護予防や生活支援サービスの提供体制の整備に向けた取組を進めるため、高齢者に必要とされるサービスの創出と提供体制の確立、また関係者によるネットワーク構築、高齢者の支援ニーズとサービス提供主体の調整を行うコーディネーターを配置するものであります。

4の¹ 障がい者に係る基幹相談支援センター機能強化事業

社会福祉士や障がい相談員などの専門職による指導・助言・情報収集・提供、人材育成などの支援について、十勝障がい者総合相談支援センター（6中プラザ）に委託することで、町内の相談支援事業所（6箇所）における相談支援機能を強化（スキルアップを図る）するものであります。

5の² 図書館を核とした地域づくり事業

町内に3箇所ある図書館を地域の核として、図書館をサポートするボランティアの人材育成と組織づくり、ストレス測定を通じた健康づくり事業や障がい者の自立支援など課題解決の場を創出する事業で、平成27年度の加速化交付金を活用し、平成29年度も地方創生推進交付金を申請している事業であります。

9ページをご覧ください。

6の¹ 住生活基本計画・公営住宅等長寿命化計画の策定

平成25年に平成25年度から平成34年度の10年間を計画期間とした公営住宅等長寿命化計画について5年を経過したので見直しをするものであります。

6の² 近隣センター改修工事

泉町近隣センター全面改修工事、大豊近隣センター防腐剤塗装工事、千住西近隣センター看板設置工事であります。

（委員からの質疑）

土谷委員 ちよっと聞き漏らしたので確認なのですが、6ページの³ 札内青葉保育所の民営化についてどうして1億3千万円もかかるのでしょうか。

菅野部長 1億3千万円についてですが、指定管理者制度から民設民営化になるに際して新たにかかるのではなく、指定管理者制度もそうでしたが保育業務を町がやるべきことを民間に委託する業務に関する委託的な意味合いであり、保育業務の委託料が1億3千万であり、新たに増えるものではなく既存の予算額を計上したものです。

土谷委員 公設から民設になるので、町に1億3千万円が入ってくるのかなと思いましたので。

菅野部長 いえ、これくらいの金額が業務委託料ということでかかっているということです。

堀川委員 3ページの² ナウマン公園のウォータースライダーですが、いつ頃完成ですか。

山端課長 予定では夏休み前の完成を目指しています。

堀川委員 空き家バンクの町で把握している空き家の戸数は何件ですか。

西嶋 現在、数値を持っていないので後ほどご回答します。

堀川委員 人口動態の中で聞けば良かったのですが、出生数が165人ということで、4ページの¹の平成28年度の不妊治療に関わった方はいるのですか。

西嶋 　　まだ平成28年度の実績が集約されておりませんので、6月に開催する本審議会で不妊治療の効果ということで報告いたします。

堀川委員 　　6ページの子育てハンドブックの作成ですが、これは書面というかハンドブックにこだわらないといけないのですか。アプリとか別の入口には出来ないかなと前から思っていました。どこか出かけた時にハンドブックだとその時に持っていない場合もありますが、電話やアプリだとすぐ確認できると思います。

菅野部長 　　この子育てハンドブックのイメージとしては、赤ちゃん手帳のイメージでお子さんが生まれた時に夫婦そろって子育てするのに必要な情報を掲載したものを差し上げるものであり、それはそれで実施しますが、ホームページにも同じような情報を掲載して、手軽に入手できることも必要と思いますので考えたいと思います。

堀川委員 　　8ページの¹ まくべつ健康ポイント事業ですが、北海道の事業と連携してとりましたが、景品は何故、町の指定ゴミ袋なのでしょう。

山端課長 　　基本的には皆さん必ずお使いになるというところで担当の方でこういうのが良いのじゃないかと考えたものです。色々考え方はあるのですが、ゴミ袋は必ず使う物という発想で整理したものです。

堀川委員 　　何年か前にたしか佐呂間町でマイル制度みたいなものがあつたと思いますが、ゴミ袋に限るのが寂しいかなと。原価が安いのでしょうかないのでしょうか。

菅野部長 　　ゴミ袋だけじゃ寂しいということで、2行目にありますが、その中からさらに抽選で商品券ということも考えております。

堀川委員 　　ぜひ幅広く考えていただければと思います。それと、ちょっと視点は違うかもしれませんが、9ページの¹ 住生活基本計画・公営住宅等長寿命化計画策定にあてはまるか分かりませんが、ちょうど昨日か一昨日ニュースを聞きまして、札幌市で公共建築物の60年間の試算が出ていましたが、公共施設の長寿命化について長期の視点で考えたときに町として維持費とか管理費の試算は出ているのでしょうか。

山端課長 　　全国どこの自治体もそうですが、これは公営住宅に特化していますが、全体の公共施設をどうするかについて今月策定したところです。ただし、個別施設をどうするかについてはそれぞれの施設の個別計画を立てることになります。全体の耐用年数について1/2で大規模改修、耐用年数を経過で更新という考え方に基づいたシュミレーションを行いまして、ホームページに本日アップしたところであります。

堀川委員 　　試算はそこに書かれているのですか。

山端課長 　　そこに書かれています。現状の施設について、耐用年数を経過したら更新、耐用年数の半分で大規模改修を全部やってみたらどうなるのかという試算です。これだけかかる分は全部出来ないでしょうという課題がありまして、40年の計画ですが、その部分はどうしていくかという流れになっています。

中村委員 　　5ページの修学旅行支援事業について、事業として非常に良いことだと思います。提案された事務方の791万円を予算化した想いと現場の受ける側の方の想いについてお話を聞かせてもらえればなと思ひまして、実は私も息子がオーストラリアに行く時に町から補助を受けて、カナダに行く時も補助を受けて今の子どもが更にスキルアップして現在大学に行っているのですが、この前少し話した時に、実は海外に行きたくても行けない人はいっぱいいるし、大学の入学式の時に大学に行けるまでにここまですなれる子も少ないという社会背景がある。今、地方創生で議論しなければいけな

いのは、幕別に住んだ時に教育環境が良いことはすごくポイントになりますので、発案された方と受ける方の参考意見を聞かせていただければありがたいです。791万円という金額は税金ですので納税者に理解してもらえるような金額であれば791万円はすごく大きな事業になる。やはり、税金を使うので町民のみなさんに理解してもらうことが一番大切で、私の享受した経験としては非常にありがたかったと思いますので、政策立案者の事務局と現場の先生から一言ずつお願いしたいと思います。

菅野部長 政策立案者ではないですが、こちらは教育委員会所管の事業でありまして、教育委員会で組み立てを行いました。前段、義務教育の負担軽減の支援として何がいいのかということで、アンケートを実施し、保護者からの意見等も聞いた上で子ども達にとって何がいいのか検討したようです。その中でやはり子ども達が社会性や今後将来に向けて色々な経験を踏むということで修学旅行は非常に大切な学習でありますし、親御さんも大きな負担軽減に繋がるということがありまして、子ども達にとっても保護者にとっても効果があると教育委員会で組み立てをしたきたものです。町としても791万円という財政負担はありますが未来の子ども達にとということで決定した事業であります。

喜多委員 一昔前までは道内の旅行で5万円程度で押さえられたのですが、今はほとんどの中学校が東京方面に行くので、よって7万円くらいかかります。さらにお小遣い2万円くらい、準備も含めると10万円程度かかります。そういう中で大体7万円くらいかかりますので上限を使うと3万5千円補助していただけるのは準備金にもされますし非常にありがたいです。これは今年から始まるものですから、まだ親の生の声は入ってないですが、新聞で報道された後、研修会などで親と話をしたところ、ほとんどの親から好評のお話をいただいています。ただし、これはあくまでも子ども達だけの話なので、教師側は道費も含め大体上限が7万円ですので、先生側はこれくらいが限度だと思いますので、補助があるからと10万円の旅行にはならないと思います。

山端課長 先ほどの空き家対策の件ですが、現状まだ確定ではありませんが230件弱と捉えています。ただし、全てが登録出来るかは確認した上で判断したいと思います。

(3) 平成29年度地方創生推進交付金申請（予定）事業について

資料3により西嶋から説明。

(説明概要)

平成29年度に国の地方創生交付金を申請している事業についてご説明いたします。

2つ事業があり、いずれも3月21日付けで国に対して申請中であり、4月下旬に採択されるかどうか決定される予定であります。

1 ページ プラス8プロジェクト in 幕別

インバウンドといわれる外国からの旅行者を対象に本町への滞在時間の8時間延長を目的とした取組であります。現在、本町を訪れる外国人の方は、夕方ホテルにチェックインし、翌朝チェックアウトとともに次の目的地に行ってしまう。このため、主にアジアをターゲットにして、地域情報を教える観光ガイドやPGの体験指導を行うボランティアの育成、PG発祥の町としてパークゴルフを含む幕別・札内地域の観光情報の発信などに取り組むことで、チェックインの前の4時間でパークゴルフ体験を楽しみ、チェックアウト後の4時間を周辺観光や焼肉を行うなど幕別町で過ごしてもらうことで地域経済に効果をもたらすことを目的とした取組みであります。事業期間は平成28年度から平成30年度までの3年間、数値目標は(1)から(3)に記載のとおり、交付金申請額は事業費の2分の1の2,250千円です。

2 ページをご覧ください。

図書館を核とした活字と笑いで活気あるまちづくり

町内に3カ所ある図書館をそれぞれの地域の核として、図書館運営をサポートする人材の育成と障がい者の職場体験、またストレス測定によるストレス度を測定し、ストレス軽減に効果のある図書の紹介や保健師への引き継ぎ、また日本落語協会の協力を得て、落語を媒体とした「笑い」を取り入れることで、ストレスを抱えている人の減少と予防医療モデルの構築を目指すものです。事業期間は平成29年度から平成31年度までの3年間、数値目標は(1)から(3)に記載のとおり、交付金申請額は事業費の2分の1の1,204千円であります。

(委員からの質疑)

- 堀川委員 図書館の関係ですが、目を引いたのは落語です。以前落語さんが来て楽しく説明し、眠くならず講話を聞いたのですが、町内の方がするわけではないのですか。
- 西嶋 町内の方でなく、日本落語協会の方が来て講話をします。ただしその前段としてストレスチェックを行い、図書館司書によるストレスを軽減する本の紹介ですとか、落語を聞いてストレスを改善するなど行うものです。
- 堀川委員 町内に落研といいますか落語研究会はないのですか。
- 西嶋 あまり聞いたことはないです。
- 堀川委員 年に何回くらい行うのですか。
- 西嶋 おおよそ4～6回開催する予定です。
- 宮本委員 1番目についてですが、十勝ヒルズもパークゴルフも夏場のことですよね。冬場に8時間滞在してもらえることも考えてはどうでしょうか。
- 西嶋 28年度に2回実行委員会を開催したのですが、その議論の中で依田の野球場を雪上パークゴルフ場にしたり、依田公園で雪像を造ったり雪遊びをしたらどうかという案も出ていますので、パークゴルフ場等については今年の冬から始めることが出来たらと検討しているところです。
- 藤原会長 帯広空港も拡張されて、海外からの直行便もありますので大勢が来て頂いて夏・冬利用いただければなと思います。あと私はいつも思うのですが、町でよくマップを作ってくれるのですが、皆さんよく旅行マップを買うと、必ず行きたい場所までの時間とルート、自転車で行けば何分、車で行けば何分と書いたマップがほとんどです。十勝管内の色々なマップを見ても食べ物やお店がなかなかあるとは言っても、時間と場所がお客さん目線のマップを作っていただければもっと分かりやすい。やはり、じゃらんとかの本はお客さんからお金をとって作っているのが時間と距離が必ず乗っているが、そういうのを作らないと、グランヴィリオから忠類までどれくらいで行けるとか、今はGPSが発達しているので大丈夫なのでしょうけど、そういうのがあればいいなと思いました。
- 藤原会長 あと、何かご意見はありますか。なければ本日の会議はこれで終了いたします。

(了)